

平成29年度

新潟大学歯学部同窓会・総会  
学術講演会

現在の歯科を取り巻く  
“新興・再興感染症”

講師：

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
微生物感染症学分野

寺尾 豊 教授

日時：平成29年4月22日（土）

午後5時10分から6時40分まで

場所：新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」

新潟市中央区笹口1丁目1番地 プラウカ1・2階

- ・生涯研修カードをご持参ください
- ・会費は無料です

主催：新潟大学歯学部同窓会

## ● 講演要旨 ●

# 現在の歯科を取り巻く“新興・再興感染症”

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
微生物感染症学分野

寺 尾 豊

今日の歯科医療や歯学教育を取り巻く主要なキーワードとして「高齢社会」と「グローバル化」が挙げられます。本講演で採り上げる“新興・再興感染症”は、高齢社会とグローバル化と密接に関わり合っています。いくつかの新興・再興感染症は、多くの人の想像通り、医療後進国と称される国々に流行の起点を発しています。リオ五輪に際して注目を集めたジカ熱は、地球の裏側の南米大陸発の新興感染症であり、対岸の火事のような印象を持たれていた会員の方も多いと推察します。しかし一方で、新興・再興感染症の中には、我が国の歯科医療に密接な関わりを有する疾患も複数あります。国内の再流行が問題視されている肺炎や梅毒、結核等は、高齢化する人口動態に併せ、過去最大の感染者数が報告されています。あるいは、MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）等の薬剤耐性菌が世界的に増加かつ多剤耐性化し、グローバル化に伴い短期間で世界中に流布しています。このような社会情勢の中でも、患者は自らが通院する歯科医院の主治医は、種々の病原微生物や耐性菌に関する万全の知識を有し、感染症の万策が尽くされていると信じています。果たして、現実の歯科医療現場では、100%の新興・再興感染症対策が達成できているでしょうか。新潟大学歯学部同窓会の皆さまには、本講演を契機とし新興・再興感染症について、一緒に最新知識のアップデートをしていければと思います。

そもそも感染症とは、病原微生物が私たちヒトに定着し、微生物そのもの、あるいはその産生毒素等で疾病を生じる現象を指します。したがって、感染症の制御には、病原微生物の殺滅が根治療法の最短コースになります。その発想に基づき発見された薬剤こそが、抗菌薬ペニシリンです。しかし直ぐにも、抗菌薬の乱用により、薬剤耐性菌が出現を始めます。MRSAは、歯科医療従事者にとって最も有名な耐性菌でしょう。抗菌薬に頼りすぎた医療は「感染症=完治できる」から「学ぶ重要度は低い」と思い込ませる事態を招きました。その結果に生じたのは、医療関係者の感染予防への意識低下です。そのうえに、高齢社会が到来し、易感染性宿主の比率が高まりました。グローバル化の拡大に伴い、ヒトとモノの世界規模移動が増加しました。そうすると、小規模な感染が直ちに大流行へと転じます。これこそが“新興・再興感染症”です。本日は、特に歯科・口腔と関わり深い新興・再興感染症の「肺炎」を例示し、共に考察を加えていきたいと思えます。

1世紀前にペニシリンで制圧されたかに思われた肺炎は、肺炎球菌を主な原因微生物とします。しかし、肺炎はこの数年間に国民病の様相を示すほどに増加しています。背景にあるのは、やはり高齢社会の進行です。必ずしも原因微生物は肺炎球菌であると限りませんが、肺炎の年間死亡者数は国内だけでも10万以上です。その中で、口腔内微生物が誤嚥されて発症する誤嚥性肺炎が増加しています。医科領域では、重症化肺炎に進行してから患者が入院してくることもあり、多量の抗菌薬を使用し救命に努めざるを得ません。当然の結果として、薬剤耐性の肺炎球菌が増大し、次なる治療をますます困難にしていけます。

難治化・長期化する肺炎治療は、医療費の膨張、患者QOLの低下、医師の激務へと悪循環

のサイクルを加速させます。特に、ペニシリン耐性の肺炎球菌の増加が著しく、ちょうど1年前の2016年4月1日に、日本政府は具体名を挙げてペニシリン耐性肺炎球菌の対策を決定しました。臨床の場に立つ会員の皆さまには衝撃的でしょうが、あと3年で抗菌薬の使用量を3分の2に減らす数値目標までが設定されています。言い換えると、極端な数値目標の策定が急務なほどに、肺炎等の感染症が高齢社会では問題になってきているのです。

そこで、歯科医療従事者の私たちが知るべきこと、行うべきことを点検したいと思います。

## 寺尾 豊 教授 略歴

### 学 歴

1995（平成7）年3月：大阪大学 歯学部歯学科 卒業  
1999（平成11）年3月：大阪大学 大学院歯学研究科博士課程 修了

### 職 歴

1999（平成11）年4月：大阪大学 大学院歯学研究科 博士研究員  
2004（平成16）年11月：大阪大学 大学院歯学研究科 助手  
2006（平成18）年10月：大阪大学 大学院歯学研究科 講師  
2008（平成20）年12月：大阪大学 大学院歯学研究科 准教授  
2012（平成24）年7月：新潟大学 大学院医歯学総合研究科 教授  
2014（平成26）年2月：新潟大学 研究推進機構 副機構長  
2014（平成26）年2月：新潟大学 研究プロジェクト推進センター長  
2014（平成26）年3月：新潟大学 シニアリサーチアドミニストレータ  
2015（平成27）年4月：新潟大学 歯学部 副学部長  
2016（平成28）年4月：新潟大学 経営戦略本部 学長室  
2016（平成28）年4月：文部科学省 科学技術学術政策動向専門調査員  
2017（平成29）年4月：文部科学省 科学技術予測センター専門調査員  
～現在に至る

### 専 門

微生物学  
感染症学

### 役 員

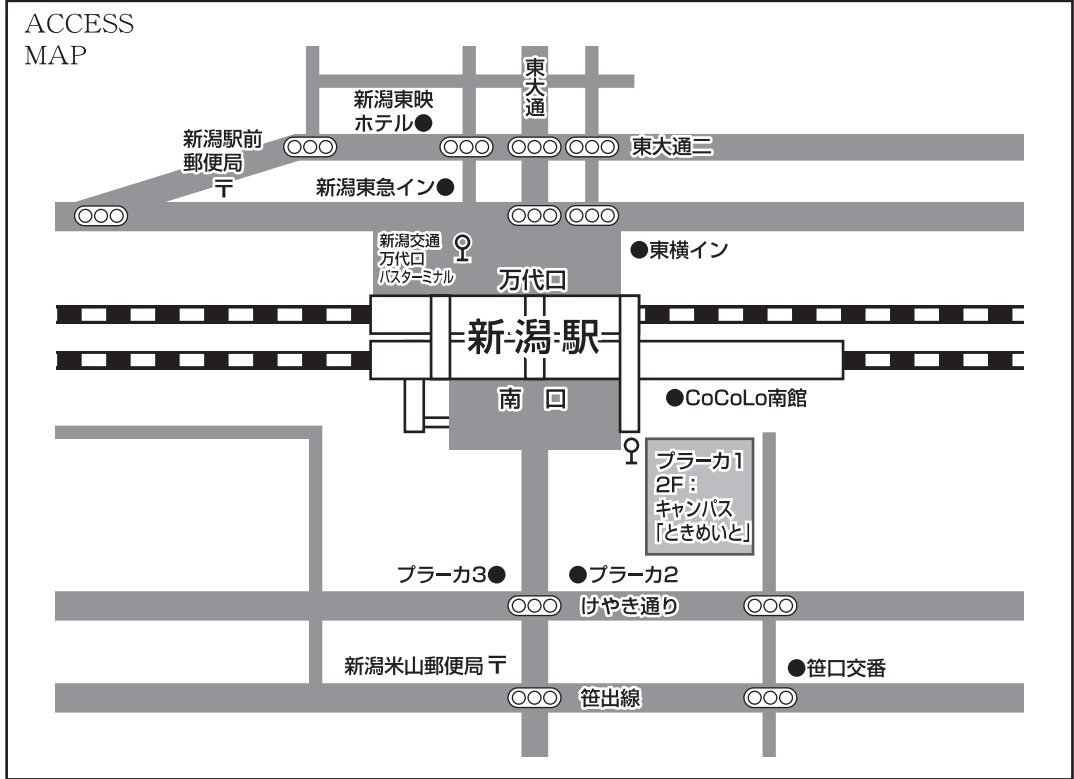
歯科基礎医学会 代議員  
日本細菌学会 評議員

### 受 賞 歴

歯科基礎医学会ライオン学術賞ならびに歯科基礎医学会賞  
日本感染症学会北里柴三郎記念学術奨励賞  
日本細菌学会黒屋奨学賞

他

ACCESS  
MAP



MEMO

MEMO